

## 生駒市農業ビジョン推進懇話会 第11回会議録 (要点筆記)

1. 開催日時 平成30年6月20日(水) 午前10時00分～正午
2. 開催場所 生駒市役所 4階 401・402会議室
3. 参加者 池上氏(座長) 井上氏(副座長) 浅井氏 石丸氏 上武氏 高枝氏  
田中氏 中井氏 中世古氏 中田氏 中村氏 平沼氏 山本氏(五十音順)  
(事務局) 石畑地域活力創生部長 林農林課長 巽農林課課長補佐  
木村農林係員 桑田農林係員
4. 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 なし
5. 議題 (1)生駒市農業ビジョン策定のスケジュールについて  
(2)生駒市の農業の現状と課題について  
(3)生駒市農業ビジョンの進捗状況について  
(4)農家アンケート調査結果について  
(5)その他

### 6. 審議内容

#### (1) 生駒市農業ビジョン策定のスケジュールについて

座長 次のことを議論していただきたい。

①7月と8月開催予定のワークショップについて、テーマ設定をどうするか。消費者等の参加者をどう絞り込むか。

②10月の懇話会開催前には、ビジョンの素案を作成し、それを基に議論していくスケジュールであるが、素案は市に作成してもらうか、素案作成部会を結成する等によるか。

③ビジョンの計画期間は、前回同様5年でよいか。

#### ①ワークショップについて

事務局 ワークショップについては、農業者だけでなく、消費者の意見を反映させるという趣旨で提案した。どんなテーマとするか、どんな消費者に参加していただくかご意見いただきたい。

座長 もの・売り方・情報の出し方など、消費者の意見を聞くべきであると考え。エンドユーザーという発想なら、飲食店はどうか。ワークショップへの参加でなく、直接インタビューでも構わないが、意見聴取は有用と考える。

参加者 スーパーも参加してもらってはどうか。

また、二回とも参加者は同じとなるのか。

事務局 1回目で課題を挙げ、2回目で解決策を議論することを想定しているため、同じ参加者で考えている。

座長 消費者としての参加者については、年齢層が固まらないよう配慮してほしい。

#### ②ビジョンの素案作成について

座長 議論のたたき台として素案作成が必要と考えるが、市に作ってもらうか、部会等により作成するか。

参加者 市に任せたい。

素案という言葉が出ているが、すでにビジョンは出来上がっており、作り直すというより、改定版(アップデート)ということになるのでは?また、作り直すにしろ、改定版を作るにしろ、まずは前回のビジョンの内容、進捗状況を評価したうえでないと、時間の無駄になると思われる。まずは、その議論が必要である。なぜ作り直す、あるいは改定するのかする必要があるのか、よく理解できない。

事務局 前回のビジョンの期間を経過しているため、新規ビジョン策定となるが、実質的にはおっしゃるとおり、前回ビジョンを基に内容を検討していく。

#### ③ビジョンの計画期間について

座長 事務局は、どういう趣旨でビジョンの計画期間を議題に挙げたのか。

事務局 農業の性質上、5年という期間は短く感じるので、ご検討いただきたい。

- 座長** 長期的な基本計画と単年度ごとの実施計画の二本立てといった手法も考えられるが、いかがか。また、目標の指標を作ったほうがいいのではないか。
- 事務局** 市の総合計画は、期間を定めない基本構想と五年の基本計画の二本立てとなっているため、それに合わせる形も良いと考える。
- 座長** 特に意見がないため、ビジョンの計画期間については保留にしておき、ビジョンの枠づくりから始めることとする。

## (2) 生駒市の農業の現状と課題について

- 座長** 課題だけではなく、推進すべき取組など前向きな意見も挙げてほしい。
- 参加者** 遊休農地の増加について、竹林の進出が課題として挙げられているが、生駒市が茶笥の里であることを生かし、茶笥組合等による市内の竹利用の促進により、問題を解決できないか。
- 事務局** 茶笥の原材料は淡竹という竹の種類が主であること、竹林の殆どが個人所有であり手を出しにくいこと等の問題がある。  
新しく創設されることとなる、森林環境税による税収の活用方法についての動きも注視していきたい。
- 参加者** 道頓堀のEM（有用微生物資材）による浄化活動みたいに、竹パウダーで竜田川をきれいにするプロジェクトとか、画期的な取組を上手に宣伝することにより、市民に関心をもってもらうこともできるのではないか。
- 座長** 竹の活用方法がないのか、大学等と連携して検討する等、なにか新しい取組ができないか考えてはどうか。
- 参加者** 農業を若者に魅力あるものにする取組をしてほしい。  
モデル的に農道を舗装するとか、生駒市民は世帯当たりの食料品購入額が高いらしいので、市民による市内の農産物購入を促進するとか、農業所得向上に寄与する取組ができないか。
- 座長** 竹林の進出・有害鳥獣による農作物被害・若者に魅力ある農業の形づくりへの対策について、ビジョン素案の材料としてほしい。

## (3) 生駒市農業ビジョンの進捗状況について

- 参加者** 繋がりを作ることができるのが農業の魅力であると感じている。親子ふれあい農業体験から市民農園、遊休農地活用事業の利用など、発展的に農業に関わる機会を提供しているということであるが、たとえば自分で作ったお米でお酒を造る会等、継続して農業に関わろうと思えるようなイベントを検討してはどうか。

## (4) 農家アンケート調査結果について

- 座長** 新規就農者には期待せざるを得ないため、アンケートだけでなく、個別にインタビューをしてはどうか。
- 参加者** 新規就農者にはアンケートが回ってきておらず、調査結果には反映されていない。

## (5) その他

- 座長** ビジョンの素案を作るうえで、検討してほしい事項などご意見を頂戴したい。
- 参加者** 生駒市の農業の良いところを伸ばすとともに、それを上手に発信してほしい。  
生駒の農業とはこういうものであると、個性を表現したビジョンを作成してほしい。また、農家アンケート調査結果を踏まえて、画一的なものではないきめの細かい計画が望ましい。
- 参加者** 以前からであるが、議論が拡散してしまうように感じている。  
旧ビジョンを踏まえて、各施策を具体的に議論していきたい。本来の目的を失念し、ビジョンに施策として記載したため実施しただけで、施策を実行したことによりどういった結果を実現したのか実感できない。  
例えば、先進地視察について、本来であれば、生駒の農業の将来像を描いて、それを実現するための参考として実施するものが、視察に行くだけで終わってしまっている。  
旧ビジョンによっては、生駒の農業がどう変わったか実感できていない現状で

あるため、今回のビジョンは結果を実感できるものになるよう意識してほしい。

**座長** 消費者の意見を取り込み、どうすれば売れるのかということ、新規就農者等がどうやって販売するかということ、都市住民を巻き込みどうやって遊休農地を活用するかということをビジョンに盛り込んでほしい。

また、なにか指標を設定するなど、農業者等がビジョンの達成を実感できるような計画となるよう意識してもらいたい。